

日本の文化財と保育

——主として幼児文化財と体育について——



山内美子

はじめに

幼児文化及び幼児文化財を次のように狭義に解釈した。¹⁾幼児文化とは、幼児の生活文化（衣食住に関する文化）以外の文化、即ち遊びの世界に関することをいい、その遊びに用いられる有形の物、即ち玩具、遊具^(註1)、絵本、テレビ、動植物園など。無形のもの、即ち鬼事、芋虫^(註2)ごろごろなどの遊び道具を必要としない遊戯、童歌^(註3)などを幼児文化財という¹⁾。

日本の幼児文化財の消長について述べると、

A 玩具について：(1)玩具は元来乳幼児を対象として生まれた物であるが、それが何時の間にか年長者のものになった物がある。それは郷土玩具で、その代表的な物はコケシである。その他、五月人形、雛人形などがある。

(2)年長者のものであったのが、コドモのものになった物がある。

それは商売繁昌とか、厄除け類に使用された物である。その代表的な物は眼なし達磨²⁾である。両眼が入ればコドモの物になる。また瘡瘡は赤い物を嫌う²⁾ということより達磨を瘡瘡除けとして用いられたが、靈験顕らかでないことが判ると、起き上がり小法師としてコドモの物になった。その他、絵双六や手鞠などがある。

(3)コドモの物として生まれ、いぜんとしてコドモのものに止まっている物は、おしゃぶり、がらがら、などである。

(4)両者に通用する物は、将棋、羽子板と羽根などである。

日本固有の玩具と思われる物は、信仰の対象であった物（例えば、因果応報の原理を説いた浄土双六）呪的（例えば、児童の健康や安全を祈るための魔除け、縁起物としてこしらえた物）を除いては考えられないようである。

B 遊戯について……郷土を愛し、郷土を尊重すれば古い遊びも

残し伝えていくことができると思う。古い遊びは日本民族の歩みを後世に残すことになると同時に、成人後、我が子、孫の相手も或る程度できるのでよいと思う。次に郷土遊びの廃れた理由を考察する。

(1) 都市計画で道路幅が広くなり、郊外へ住宅が移動したので、郷土色が薄くなったこと。

(2) 交通特にバスが発達したので、田舎からの通勤、通学が可能になり、都会の遊びに対する流行の取り入れが速くなったこと。

(3) 固有の遊び道具を親は勿論のこと、その地方の企業家も生産しなくなったこと。

(4) テレビ、ラジオ、幼年雑誌、絵本の発達により、固有の遊びに対する興味が消失したこと。以上の点が挙げられると思う。

幼児の一日は遊びの連続である。年長者の遊びは頭、身体を休めたり、気分の転換だけで遊びになるが、幼児のは身体をつくった文化財で遊ばせることは、幼児心理の発達、身体の成長を助長するのではないかと思う。そこで今回は日本古来より伝承されている文化財の中で、体育に関係があるものについて、古典を参照しながら、男女共通に利用されるものについて述べてたい。

屋外遊戯について

風揚げ^{たあ}：(1)「紙鳶ハ春ノモノニテ、俳諧連歌ニモ二月ノ季ニ用ウルナレドモ、大坂ナドニテハ五六月、西国邊ハ七八月兒童ノモテア

ソフナリ」。「これまで風のぼりといへば皆正月に多く行はれしものなるに……」⁵⁾とあるように四季を問わず遊ばれる。ゴドモは風の子⁶⁾といわれるように、風揚げは風のある日が揚げ易いので保健上よい。

(2) 大空をみあげての風揚げは気分を爽快にするばかりでなく、落さないように注意を配るために、注意力、筋肉の統制力も養成される。また揚げ初めに走れば、質量の大きい筋肉の大半が働くので運動量は大きくなる。風が揚つてからは、上半身がやや反身になり、風の抵抗に打ち勝ちながら糸をあやつるので、圓背、腰椎の後彎を予防し、胸筋を強め、胸廓の呼吸運動を自由にする。糸は大いにあやつった方がよい。

(3) 誰の風がよく揚るか、どうすれば揚げやすいか、揚る風と揚げ難い風とを比較させたり、よく揚げる幼児に揚げ難い風を揚げさせてみたりすると、観察教育にもなる。

(4) 足もとのよいしかも電線のない広場を選んで、交替で揚げさせるとよい。糸を巻く際は両手を大きく廻させるようにすると胸部の左右の発育のためによい。

・輪(たが)廻し：(1)「江戸及近在の小児、樽のたがを、竹の枝など丁字形したるにて、地上を押しまらばす歩行戯あり」⁶⁾とあるが、幼児にはY字形の棒で、車の輪か、大きな輪投げの輪を利用すればよいと思う。フレイベル館で大量製産して貰うと好都合とと思う。直径は自転車車輪から、だんだんと小さく、三〜五種位あ

ればよいと思う。

(2)大筋肉群の働きと、神経系統の共同作用で、身体は訓練される。大筋肉群の運動は全身の新陳代謝を旺盛にし、栄養を司る消化機関は勿論のこと、呼吸、循環、排泄器官の活動を促進させ、これらの諸器官の機能を増進させる。また練習効果も判るので興味が湧く。

(3)どうすればよく廻るか、大輪と小輪を廻す際の難易、走るのどちらが走り易いかなどを比較させる。

(4)ぐるぐると思うように輪が廻るようになると幼児は征服感を満足させ、どこまでも遠出をすることがあるから、園庭、児童公園外では廻さないことを約束させなければならない。また近所の道路といえどもさせない方がよい。輪廻しに気が奮われているために交通事故を引き起こすことがある。

その他、病後もさせない方がよい。それは廻る輪に誘われて過度になり易いからである。

・風車：(1)「小児の玩物の風車はふるくよりありしもの也」⁷⁾とあるように日本古代民族の各幼児は持って遊んだようである。各自に好みの色で製作させ、それを持って園庭で、二十米位の間隔で向かい合って走り競走をさせると、体育によいばかりでなく、物理現象の観察もできてよい。

(2)どうすればよく廻るか、各色の風車、七色(菘藍青緑黄橙赤)を縞にした風車が廻るとどんな色にみえるか、を観察させる。

(3)製作に針を使用する場合は、床や園庭へ不使用の風車を捨てな

いように注意する。

・芋虫ころころ：(1)「古きのさまに、帯をとり付く／＼してかゞみ居てありく、其はやしごと、芋むしころころひょうたんぼっくりこと言ひつゝ……」⁶⁾とある。この遊びは先頭の児童と後尾の児童との問答があるが、文獻通りにしなくてもよいと思う。紅白に別れて、はやしながら決勝点に、身を左右に揺りながら離れないように、たどりつく競争である。

(2)膝関節、股関節が強度に曲げられたまま歩行する上、上肢は前児のベルトにしがみついているので、身体中の筋肉を使用することになる。更に下肢が痛くても、立てば負けになるし、手を離せば尻餅をつくようになるので、精神訓練にもなるのでよい。

(3)屋外遊びにすると日光紫外線中ドルノ線を受けるからよい。但し夏季は木蔭がよい。遊戯室が広い場合は雨天でも出来る。各児は腰を折らないようにしゃがませる。長靴下を履いている者は靴下止めを膝まで下ろさせると、血液循環をさまたげないからよい。

以上のように屋外運動は体内の熱発生が盛んであるから、皮膚は寒冷に耐え易く、これが習慣となつてますます皮膚が寒冷に耐え得るようになる。また運動に慣れると汗腺の反応が迅速になって、運動を始める時から不可視性発汗の度を高め、たとえ運動が強くても、身体は無益の発汗を制限するので、感冒に罹患し難く、またいたずらに疲労もしなくなる。

幼児はよく走り廻るが、走る遊びは心臓実質をも強化するからた

いへんよい。幼児の血圧は低いので走るのに堪え得る。であるからコンクールに参加する為に長く坐して製作、描画をしたり、大学付属小学校へ入学する為にテストの準備をしたりするのは、その旺な新陳代謝を制限し、ひいては全身の健康を害するようになるから、保育者たちは注意を要する。

屋内でも可能な遊戯について

・指引^{めびりき}：(1)「二夫相對シ各々一指ヲ曲テ、引合ノ戯ナラン」とあるように、二児が引ばり易い指を出して、力一ぱい引き合うのである。これは「石子、頸引、腕推^{うでおし}」と出ているのをみると六百余年前には遊ばれていたようである。この遊びは臀部が拳ったり、引き寄せられると負となる。立って引く場合は踵が拳ったり、足の位置が狂えば負となる。

(2)利き手の指のみでなく、他の手でも度々すると左右の胸廓、胸筋、背筋がバランスのとれた発育をする。また軽い努責を伴うので、心臓の重量を増加させる補助ともなる。

・頸引：(1)「二夫相對シ一緒ヲ輪トナシ、各々ノ頸ニ掛^か之^を引テ勝負ヲ決スルノ戯也⁸⁾」とある。一五〇〜二〇〇程の紐か兵古帯を輪に結んで、その輪を両児の首にかけ、その紐に手をふれないで相手を自分の方へ引き寄せる遊びである。これも立ってする場合と、坐ってする場合がある。

(2)この遊びは頸部から背部、腹部の運動となり、努責も伴うの

で、心臓が生理的に肥大するのを補助するのでよい。

(3)床の上で立ってする場合は、靴下の類は脱いだ方が滑らなくてよい。

・腕推(腕角力)：(1)「各互掌を合せ握りて押伏ルヲ勝トスル戯也⁸⁾」とあるように、床、机上に肘をつけて倒し合う遊びである。

(2)上肢の各筋肉は勿論のこと、胸部、背部の筋肉を運動させるからよい。これも多少の努責作用があるので心臓のためによい。

・紙つけ：(1)「額に細き紙を唾にてつけ、ぬれざる処、目のあたり迄下りたるを、息も吹落すことなり⁹⁾」とあるように、巾五程、長さ四〜五程位の紙を貼って競争させる。

(2)この遊びは呼吸を利用するのである。呼吸が大なる程紙は早く落ちる。呼吸が大であれば吸気も自ずと大となる。即ち深呼吸をくり返すことになるので、胸廓の前後の発育を助けるのでよい。

(3)西洋紙のように厚い紙から、だんだんと薄い紙に移行していくとよい。また紙をぬる面積、紙の長さ、巾もいろいろにして試めさせると幼児なりに、物理現象を把握していく。

・石投子(お手玉)：「西行の歌に『石なごの玉の落来るほどなきに過ぐる月日は変りやはする』とよめるは、これ今言ふお手玉なり¹⁰⁾」とある。西行法師は一一〇余年前の人であるから、ずいぶん古くからあったようである。二箇の玉取りは幼児にもできる。

(2)(a)二箇でする場合は大筋肉を余り使用しないので運動量は少ないが、他の遊戯ではみられない前膊の回転運動をすると同時に、手

筋も運動をするので、指が微妙に動く、即ち手先が器用になる。(b) 頭上にお手玉を載せて落さないように歩かせると、運動中枢が訓練されるので、必要な運動中枢以外の中枢が参与しなくなる。男女共にこれらの遊びはよい。

・籠目：(1)「籠目々々籠の中の鳥はいつ／＼出やる、夜明けのぼんに、つる／＼つこばいた」⁽¹¹⁾これは現在の歌詞とは異っているが、動作は大體同じと思われる。この遊びはしゃがんだり、立ったりするところに良さがある。ぐるぐる歩く際に蟹の横ばいのように、軀幹、下肢は正面を向いたままで、下肢を交叉して歩くとよいと思う。

(2)脚を左右横に挙げることは余りないので、蟹の横ばいのように歩くと、臀部の筋肉の運動となるからよい。

・歴史が古く、現在もなお遊ばれているものは、鬼事⁽¹³⁾、縄飛⁽¹⁴⁾、綱引き⁽¹⁵⁾、手鞠⁽¹⁶⁾などがある。これらは大筋肉群を活動させるので、脊髄神経や小脳、などの基礎神経節及び皮質における運動中枢その他観念聯合に関する神経中枢が発達するのでたいへんよい遊びである。

以上十四種程、体育に關係のある幼児文化財を挙げたが、この日本民族の遺産は幼児と保育者の手で保存したいと思う。幼児の文化財はその時代の流行も取り入れなければならないが、古いものでもよいと思われるものは雨天の日に、勢力のはけ口に困る幼児に与えたいと思う。また晴天の日には、大筋肉群を使用すると同時に、練習効果や征服感の味わえるような遊びをもさせたり、協力して初めて勝を得るような団体遊びをさせたいと思う。

(註1) 遊具とは、運動を講ずるところの固定してある遊び道具、即ちブランコ、シーソー、ジャングルジム、滑り台などをいう。

(註2) 本稿での各種目は一般には児童文化財に相当するが、幼児及び保育者たちに特に保存して貰いたいために幼児文化財とした。

△引用文献▽

- 1 山内 美子：幼児の教育 一九五九年
 - 2 佐藤 深：玩具と縁起 一九三五年
 - 3 萩原 正徳：旅と伝説 六月号 一九二八年
 - 4 澄平 直方：夏山閑話 卷五 一七四一年
 - 5 大田才次郎：児童遊戯法 下巻 一八九〇年
 - 6 喜田村信節：嬉遊笑覧 兎戯部 六巻の下 一八二九年
 - 7 三浦 安貞：梅園日記 二巻 一八五五年
 - 8 喜田川守貞：守貞漫稿 二十八卷 一八三七年
 - 9 虎関 師鍊：異制庭訓往来 一三二一年
 - 10 山東 京伝：骨董集 上編 中之卷十九 一八一三年
 - 11 作詞者不明：清元、月花妓友鳥 年代不明
 - 12 戸倉ヘル他：うたとあそび 一九五六年
 - 13 岩瀬 百樹：蜘蛛の糸巻 一八四六年
 - 14 大田才次郎：児童遊戯法 中巻 一八九〇年
 - 15 永田 貞柳：狂歌全集類題 春の部 一八〇九年
 - 16 本居 宣長：古事記伝 卷二十七 一七九二年
- △参考文献▽
- 1 神宮司序：古事類苑 一九〇八年
 - 2 有坂与太郎：玩具叢書 日本玩具史篇 一九三四年
 - 3 酒井 欣：日本遊戯史 一九三五年
 - 4 中村 久慈：日本の玩具 一九四三年
 - 5 中村美佐雄：郷土玩具 一九四三年
 - 6 小高吉三郎：日本の遊戯 一九五〇年
 - 7 西沢 笛敵：日本の人形と玩具 一九五七年

(広島女子短期大学)